久里双水古墳（唐津市）

くりそうずい

松浦川右岸の丘陵先端部に、3世紀末～4世紀初めに築造された前方後円墳である久里双水古墳が所在する/左手が後円部、右手は前方部 video

久里双水古墳公園として保存・整備されている/「久里双水古墳」と刻まれた標柱が立っている

video

公園の広場から南方向に所在する久里双水古墳を見たところ

アップで見たところ/手前の建物は後円部埋葬施設のレプリカの覆屋/左手には説明板が立っている

久里双水古墳―王墓の発見

唐津平野最大の古墳発見・調査への経緯

久里双水古墳と周辺の遺跡（S＝1/1,000

発　見

久里双水古墳は、昭和５６年４月の佐賀県労働者住宅生活協同組合の団地造成に伴う山林伐採や測量調査により、前方後円墳であることが確認されました。

同時期に周辺で見つかった双水迫古墳群や双水柴山古墳群の一部は、発掘調査の後に消滅しましたが、久里双水古墳は、唐津平野における最大級の古墳であることから、団地造成範囲の縮小や県道の迂回案が合意され、保存措置が図られました。

昭和６３年には、市の史跡指定を受け、平成元年３月には古墳周辺の土地が公有化されました。

平成５年度墳頂部調査

調　査

公有化後、古墳の規模や主体部（埋葬施設）の情報を古墳の保存整備に反映するため、平成３年～５年の三ヶ年にかけて範囲確認調査が計画されました。

平成３年度に前方部、平成４年度に後円部における古墳の規模・範囲の確認を行いました。平成５年度には、古墳の造成方法や、埋葬施設の位置の確認を目的として、後円部と前方部の各墳頂部分の調査を実施しました。

この三ヶ年の調査結果をふまえ、平成６年には、埋葬施設の構造や副葬品の詳細把握を目指し、後円部墳頂部分での追加調査を行いました。

平成６年度埋葬施設調査

巨大古墳に葬られた人とは？

発掘された石槨・副葬品がよぶ被葬者のナゾ

竪穴式石槨平面（S＝1/5）

出土した副葬品

天井石（蓋石）取り外し前

石　槨

後円部の埋葬施設は、砂岩と玄武岩の板石を交互に積み上げ、棺を囲った竪穴式石槨であり、赤色顔料（ベンガラ）を内面に塗り、３枚の天井石と粘土で密閉していました。遺体や棺は残っていませんでしたが、粘土床の形状から、前方後円墳では類例がない舟底状をした木棺だった可能性があります。石槨の大きさは、長さ 2.65m・幅 0.92mで、100mに迫る規模の古墳でありながら、埋葬施設の長さが一般的な前期古墳の半分程しかないことも、久里双水古墳が持つ独自性の一つと考えられます。

副葬品

石槨内から鏡１面、長さ７～９mmの碧玉製管玉２点、石槨上端の板石と天井石の間から長さ７ｃmの鉄製刀子１点が出土しました。これらの副葬品は、平成 23 年４月に佐賀県重要文化財に指定を受けています。

鏡は、被葬者の頭付近から見つかっており、直径約 12cm を計り、２世紀以降（中国の後漢代）に製作されたと考えられる「盤龍鏡」と呼ばれるものです。

墳丘と埋葬施設の規模が合わない問題と同様に、墳丘の規模に対して、副葬品を少量しか持っていないことや、鏡の入手経路については、現在も決着していない大きな謎として残されています。

久里双水古墳と周辺の遺跡（S＝1/1,0

発　見

久里双水古墳は、昭和５６年４月の佐賀県労働者住宅生活協同組合の団地造成に伴う山林伐採や測量調査により、前方後円墳であることが確認されました。

同時期に周辺で見つかった双水迫古墳群や双水柴山古墳群の一部は、発掘調査の後に消滅しましたが、久里双水古墳は、唐津平野における最大級の古墳であることから、団地造成範囲の縮小や県道の迂回案が合意され、保存措置が図られました。

昭和６３年には、市の史跡指定を受け、平成元年３月には古墳周辺の土地が公有化されました。

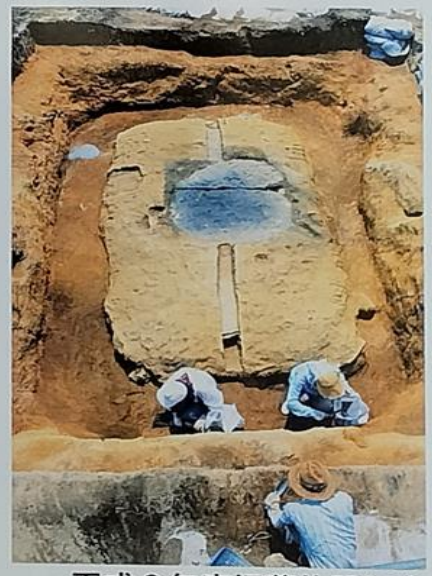
平成５年度墳頂部調査

調　査

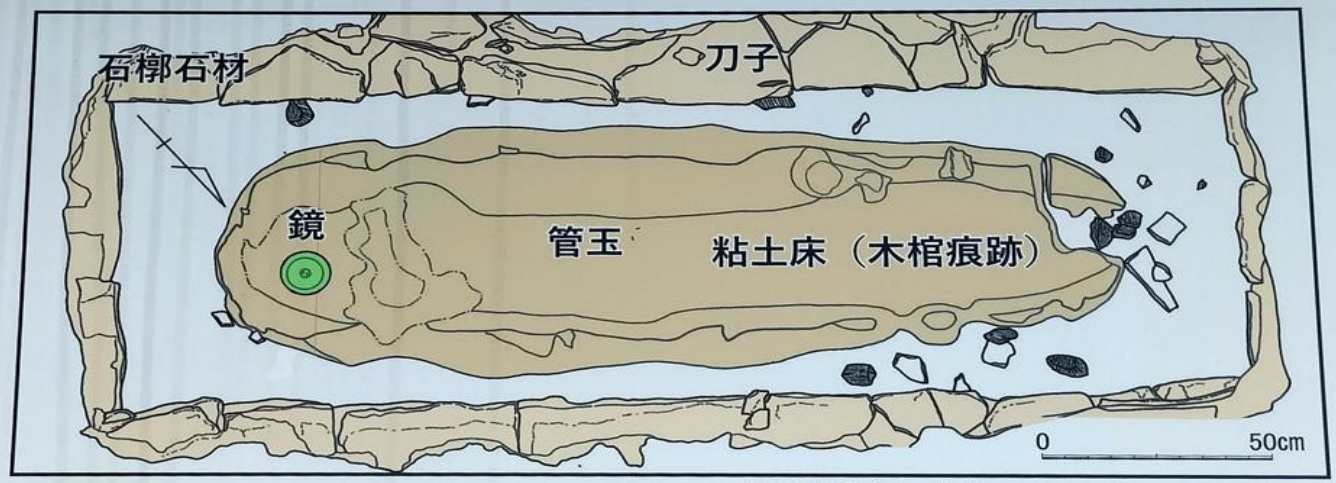
公有化後、古墳の規模や主体部（埋葬施設）の情報を古墳の保存整備に反映するため、平成３年～５年の三ヶ年にかけて範囲確認調査が計画されました。

平成３年度に前方部、平成４年度に後円部における古墳の規模・範囲の確認を行いました。平成５年度には、古墳の造成方法や、埋葬施設の位置の確認を目的として、後円部と前方部の各墳頂部分の調査を実施しました。

この三ヶ年の調査結果をふまえ、平成６年には、埋葬施設の構造や副葬品の詳細把握を目指し、後円部墳頂部分での追加調査を行いました。



平成６年度埋葬施設調査



竪穴式石槨平面（S＝1/5）

出土した副葬品

天井石（蓋石）取り外し前

石　槨

後円部の埋葬施設は、砂岩と玄武岩の板石を交互に積み上げ、棺を囲った竪穴式石槨であり、赤色顔料（ベンガラ）を内面に塗り、３枚の天井石と粘土で密閉していました。遺体や棺は残っていませんでしたが、粘土床の形状から、前方後円墳では類例がない舟底状をした木棺だった可能性があります。石槨の大きさは、長さ 2.65m・幅 0.92mで、100mに迫る規模の古墳でありながら、埋葬施設の長さが一般的な前期古墳の半分程しかないことも、久里双水古墳が持つ独自性の一つと考えられます。

副葬品

石槨内から鏡１面、長さ７～９mmの碧玉製管玉２点、石槨上端の板石と天井石の間から長さ７ｃmの鉄製刀子１点が出土しました。これらの副葬品は、平成 23 年４月に佐賀県重要文化財に指定を受けています。

鏡は、被葬者の頭付近から見つかっており、直径約 12cm を計り、２世紀以降（中国の後漢代）に製作されたと考えられる「盤龍鏡」と呼ばれるものです。

墳丘と埋葬施設の規模が合わない問題と同様に、墳丘の規模に対して、副葬品を少量しか持っていないことや、鏡の入手経路については、現在も決着していない大きな謎として残されています。

よみがえった王墓
調査成果を反映した公園整備
発見当初の久里双水古墳
後円部 竪穴式石槨 全景
整備直後の公園（上空から）
成　果
昭和５６年の発見から平成６年までの調査により、墳丘全長９０ｍ（調査前は１０８ｍと推定）、後円部径４７ｍ、前方部幅２９ｍで、市内最大の規模を持つ、古墳時代前期前半の前方後円墳であることが判明しました。
古墳の墳丘は、前方部と後円部の比率がほぼ１：１で「柄鏡形」に近く、元々の丘陵を削り出して後円部と前方部下半を成形し、高さを補うように、前方部上半にのみ盛土を施しています。また、墳丘外面には、明瞭な段差（段築）は造られておらず、葺石も確認されていません。
墳丘の比率、葺石・段築の欠如など、久里双水古墳が持つ諸要素は、古墳時代前期前半墳の近畿や北部九州地域の前方後円墳とも完全に合致するものはなく、古墳の築造に対する唐津平野独自の地域性がうかがわれます。
復元・整備
発掘調査と並行した平成４年～６年の間に、「まつらの里久里双水古墳整備事業」として、古墳の外観整備・園路と広場の造成・ベンチや案内板等の施設整備を行いました。平成８年には、後円部埋葬施設のレプリカも設置されました。
また、平成２８年４月には、古墳文化の地域への波及を示す最古級の前方後円墳であることなどが評価され、佐賀県史跡に指定されています。

後円部 竪穴式石槨（たてあなしきせっかく） 全景（ぜんけい）

発見当初の久里双水古墳

整備直後の公園（上空から）

成　果

昭和５６年の発見から平成６年までの調査により、墳丘全長９０ｍ(調査前は１０８ｍと推定)、後円部径４７ｍ、前方部幅２９ｍで、市内最大の規模を持つ、古墳時代前期前半の前方後円墳であることが判明しました。

古墳の墳丘は、前方部と後円部の比率がほぼ１：１で「柄鏡形」に近く、元々の丘陵を削り出して後円部と前方部下半を成形し、高さを補うように、前方部上半にのみ盛土を施しています。また、墳丘外面には、明瞭な段差（段築）は造られておらず、葺石も確認されていません。

墳丘の比率、葺石・段築の欠如など、久里双水古墳が持つ諸要素は、古墳時代前期前半頃の近畿や北部九州地域の前方後円墳とも完全に合致するものはなく、古墳の築造に対する唐津平野独自の地域性がうかがわれます。

復元・整備

発掘調査と並行した平成４年～６年の間に、「まつらの里久里双水古墳整備事業」として、古墳の外観整備・園路と広場の造成・ベンチや案内板等の施設整備を行いました。平成８年には、後円部埋葬施設のレプリカも設置されました。

また、平成２８年４月には、古墳文化の地域への波及を示す最古級の前方後円墳であることなどが評価され、佐賀県史跡に指定されています。

これが後円部埋葬施設である竪穴式石槨のレプリカ

video

さて、墳丘に登ってみよう！/右上が前方部、正面奥上は後円部

video

左手が後円部、右手は前方部

video

後円部の墳頂に登って、前方部方向を見たところ

video

後円部から括れ部・前方部を見下ろしたところ/前方が北方向

video

そこで左手を見ると、右前方が唐津湾方向で、左手の松浦川が流れていく

video

同じく、左後ろを見ると、前方が久里柴山古墳群が所在する丘陵/墳丘下に説明板が見える

括れ部辺りで前方部を見たところ

video

振り返って後円部を見たところ

video

前方部墳頂で後円部方向を見たところ

video

左手を見たところ

右手を見たところ

振り返って後ろ（北方向）を見たところ

video

これは後円部の墳頂から見えた説明板の一つ

双水迫経塚

巨大古墳上に築かれた信仰の跡

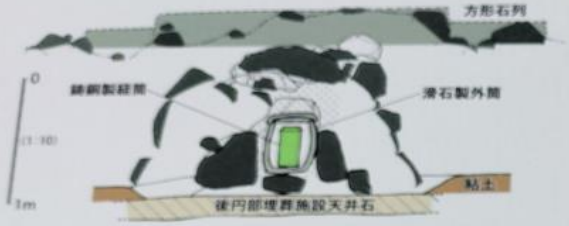
経塚とは、仏教の経典を土中に埋め、後世まで仏の教えを伝えるなどの目的で、平安時代～江戸時代に多く造られました。

久里双水古墳の脇に移築復元した双水迫経塚は、久里双水古墳の後円部にある埋葬施設の真上から発見されました。造られた年代は、平安時代の終わりごろと推定され、九州でも最古段階のものです。

経塚を造る際に、埋葬施設を覆っていた粘土を一部除去して天井石を露出させたのち、経塚の基盤として利用しています。経塚の上方には、一辺約二・五mと約一・七mの二段の方形石列が構築されていました。

経典は、滑石製の外筒容器内に、鋳銅製の経筒に納められていたようですが、紙の断片が残っていたのみでした。また、経塚からは、青白磁合子や、硝子製小玉、二枚組の土師皿が出土しています。

経典の埋納場所に古墳の墳頂が選ばれたのは、周囲を見渡せ、かつ遠方からも視認できるという好立地であったためと推測されます。



経塚の発見状況（上から）と断面模式図

鋳銅製経筒

青白磁合子

土師皿

滑石製外筒

これが後円部にある埋葬施設の真上にあった平安時代の終わりごろに造られた経塚を移設したもの

こちらはもう一つの説明板

双水柴山古墳群

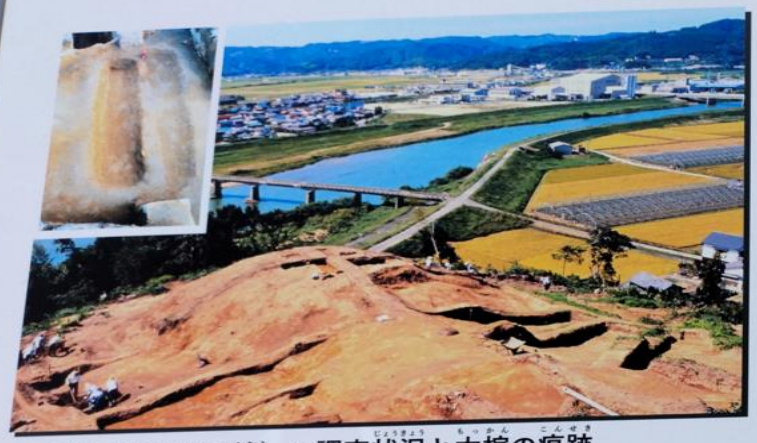
前方後円墳を含む中型・小型の古墳群

双水柴山古墳群は、県道相知―浜玉バイパスの敷設に伴って発見された、三基の古墳と一基の小墳墓からなる古墳群です。三基の古墳（一～三号墳）は、久里双水古墳から南東約四〇〇ｍの距離にある丘陵上に位置し、小墳墓（四号墳）は、丘陵北側の谷部付近で見つかりました。

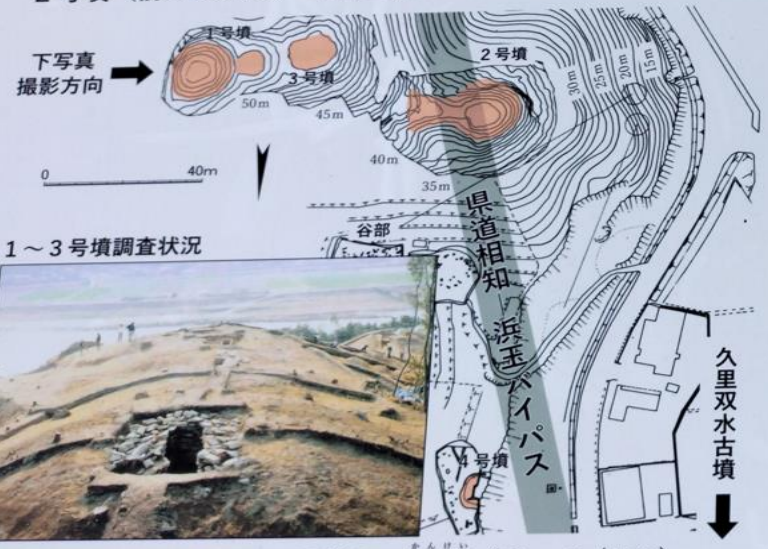
古墳時代前期前半から中期に築かれた古墳群であり、なかでも二号墳は、久里双水古墳とほぼ同時期の全長三十二ｍの前方後円墳と考えられていますが、こちらの墳丘は盛土を積み上げて全体を形づくっています。

四号墳以外の古墳からは、鉄器や玉類等の副葬品が見つかっているほか、一号墳と三号墳には合わせて五体分の人骨が残っていました。

唐津の古墳時代前半期の古墳築造の変遷・階層性を考える上で重要な古墳群であることから、平成四年九月に市の史跡に指定されています。



２号墳（前方後円墳）の調査状況と木棺の痕跡



１～３号墳調査状況

双水柴山古墳群の位置と県道との関係（Ｓ＝１/400）

さて、これは公園の東端に移築されている久里双水迫古墳群の5号墳の箱式石棺

双水迫古墳群

久里双水古墳に続く小型の古墳群

双水迫古墳群は、久里双水古墳と同様に、労働者住宅団地造成に伴う発掘調査によって発見された五基の小墳墓群です。久里双水古墳と同一丘陵上の南東五十mの位置に、古墳時代前期後半から中期にかけて、連続して築かれており、直径十～十二m程の規模を持っていました。

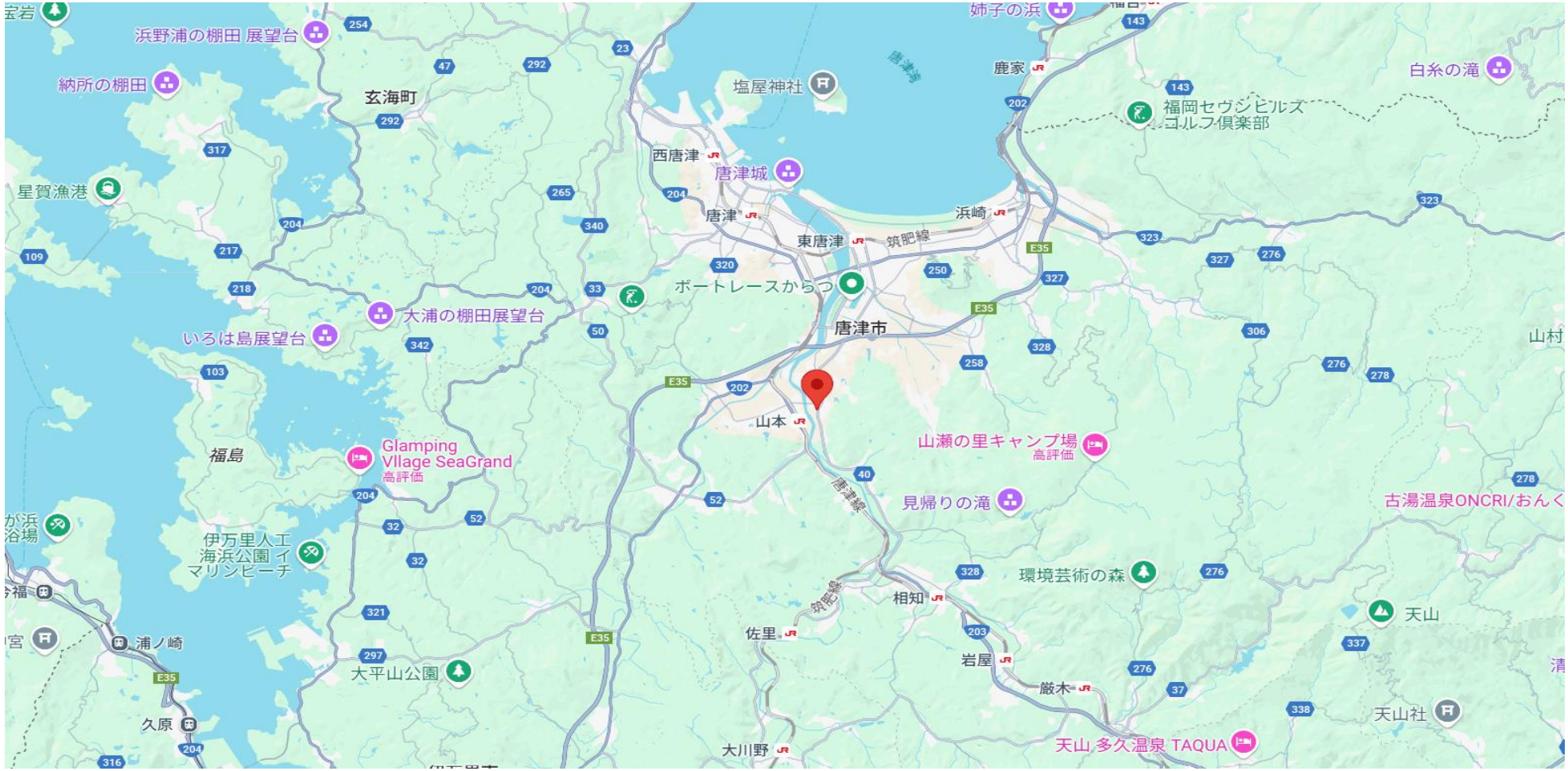
埋葬施設は、盗掘や削平を受け完全には残っていませんでしたが、一号墳は石棺系石室、二号墳は土坑、三号・五号墳は箱式石棺であることがわかりました。副葬品は、一号墳から鉄剣・刀子各一点、三号墳から刀子二点、二号墳の周溝から土師器が見つかっています。また、五号墳の石棺からは、熟年男性の人骨が良好な状態で残っていました。

この古墳群は、発掘調査終了後に削平され消滅しましたが、公園内に五号墳の箱式石棺を移設して展示しています。

５号墳の箱式石棺から見つかった男性人骨

１号墳の全体検出状況と石棺系石室

こんな塩梅


浜野浦の棚田 展望台
納所の棚田
玄海町
星賀漁港
いろは島展望台
大浦の棚田展望台
福島
Glamping
Village SeaGrand
高評価
伊万里人工
海浜公園 イ
マリンビーチ
浦ノ崎
久原
大平山公園
塩屋神社
西唐津
唐津城
唐津
東唐津
浜崎
筑肥線
ボートレースからつ
唐津市
山本
唐津線
佐里
相知
岩屋
厳木
大川野
鹿家
姉子の浜
福岡セヴシビルズ
ゴルフ倶楽部
白糸の滝
山瀬の里キャンプ場
高評価
見帰りの滝
環境芸術の森
天山
天山社
天山 多久温泉 TAQUA
古湯温泉ONCRI/おんく
山村